Monthly Report

SENDAI UNIV. PUBLIC RELATIONS

Vol.147 / 2018 JUL.

「SAKURACAMP2018」ベラルーシ新体操ナショナルチームの公開演技会が行われました。



ベラルーシ団体フープの演技

7月28日(土)13:30~仙台大学第5体育館で「SAKURACAMP2018」ベラルーシ新体操ナショナルチームと仙台大学女子新体操競技部、男子新体操競技部の公演演技会が行われました。

会場には約600名の観衆が世界トップレベルのパフォーマンスを見に来られ、観客を美しさと妖艶さ、人間美の極致の世界に引き込みました。

ベラルーシ新体操ナショナルチームは今年で2回目の事前合宿となり、7月20日~7月31日の滞在中は白石市のホワイトキューブや仙台大学で練習会が行われました。イリーナ・レパルスカヤコーチは「五輪で力を出すには本番と同じ環境でないと困るので私たちにとってありがたい暑さです。」と今回の目的を語りました。

また、昨年の世界選手権の種目別クラブで銀メダルのカチェリーナ・ガルキナ選手は「これから2年という短い期間で練習していかなければいけない。まずはオリンピックに出る権利を手に入れたい。」と意気込みを語ってくれました。

世界トップレベルの「美」に触れながら2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けてベラルーシ新体操ナショナルチームを応援しましょう。



カチェリーナ・ガルキナ選手の演技



仙台大学新体操競技部の演技

〈目 次〉

- 「SAKURACAMP2018」ベラルーシ新体操 ナショナルチームの公開演技会が行わ れました。
- ・スポーツ庁「大学スポーツ振興の推進 事業」に選定されました
- ・池田敦司教授が日本版NCAA設立準備員 会作業部会主査に就任しました
- ・同窓会宮城仙南支部総会が開催されました
- 平成30年度海浜実習報告
- ・第3回仙台支部総会及び懇親会を開催
- ・3年生対象の就職指導個別面談の実施
- ・2018年シーズンを迎えるに当たり
- ・楽天生命パーク宮城にてスポーツ施設 見学会が開催されました
- ・スポーツ情報マスメディア学科の卒業 論文研究計画発表会を開催
- ・上海体育学院卓球競技サマースクール
- ・スペシャルオリンピックス日本 ユニ ファイドフッドボールカップ・シカゴ 大会に黒羽秀選手(健康福祉学科2年) が日本選手団として出場しました
- ・第19回「校長職就任祝賀会」 第9回「宮城県、仙台市新規採用教員 激励会」を開催
- ・今年で3回目「仙台大塾」開講しました
- ・ボブスレー・スケルトン 競技選手発掘 コンバインテスト (身体能力テスト)を開催
- キャンパスライフサポートグループによる学生たちとの交流活動
- ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.4

学生の活躍や、取り組みなどをご存 知でしたら広報室までお寄せくださ い。

Monthly Reportで紹介する他、報 道機関にも旬な話題を提供して参り ます。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



スポーツ庁「大学スポーツ振興の推進事業」に選定されました



スポーツ庁が平成30年3月27日から5月18日まで提案を募集していた、大学スポーツ・アドミニストレーターの配置などの大学におけるスポーツ活動を支援する「大学スポーツ振興の推進事業」に関して、平成30年度として15大学の選定が発表され、東北の大学では唯一本学が選定をされました。

本事業は「日本版NCAA」の設立に向けてモデルとなって大学スポーツの振興を行っていくものであります。本学としては、専門とする体育スポーツ健康科学の教育研究とその一環としてのスポーツ実技教育の高度のノウハウを駆使し、学長直属組織としてスポーツ局を設置し、本学の部活動を統括するとともに「する、みる、ささえる」の視点から本学のスポーツ活性化を図っていきます。

「スポーツ局」は、以下の役割を担っていきます。

- ①学生アスリートキャリアアップ戦略プログラムの推進
- ②学生アスリート支援プログラムの拡充と実践
- ③部活動におけるマネジメント業務の標準化とマネジメントパッケージ作成
- ④地域貢献を視野に入れた本学ポーツ施設の利用・運営管理
- ⑤スポーツによる大学ブランドの認知度向上と将来的な大学スポーツのビジネス化また、本事業の一環で、次の先進的モデルの企画の立案と推進を行っていきます。
- ①大学スポーツの振興のためのホーム&アウェイ方式での試験的試合の実施
- ②スポーツボランティアの育成を通じた学生のキャリア形成支援と地域貢献の展開

池田敦司教授が日本版NCAA設立準備員会作業部会主査に就任しました



講義の様子

スポーツ庁は7月24日に「第1回日本版NCAA設立準備委員会」を開催し、新たな準備組織を立ちあげて来春の日本版NCAA設立に向けて準備を進めることを発表しました。

新たな準備組織は、「学業充実分野」「安全安心・医科学分野」「事業・マーケティング分野」の3分野で15の テーマを設定、15の作業部会を設置するもので、その各々の作業部会で課題の検討を行っていく体制となります。また、15の作業部会のうち「スポンサープログラム及び賛助制度の策定」部会の主査を池田敦司教授が務めることとなりました。

早速、同日開催の「第1回日本版NCAA設立準備委員会作業部会」において作業部会が取り組む基本方針に関してのプレゼンテーションを行いました。

同窓会宮城仙南支部総会が開催されました



総会で祝辞を述べる朴澤理事長・学事顧問

7月7日(土)に、仙台大学学生食堂「なちゅら」を会場に、仙台大学同窓会宮城仙南部総会並びに懇親会が開催されました。当日は仙南地区に在住・勤務する23名の同窓生に加え、ご多用のところ、朴澤泰治理事長・学事顧問、鈴木省三同窓会会長にもご臨席いただきました。総会では、昨年度の事業報告および決算報告、今年度の事業計画と予算案が原案通り可決されました。今年度、仙南支部が行う目玉事業としては、仙南地区に実家がある現役学生(4年生)を案内した「励ます会」の実施があります。この事業は就職活動においてはもちろん、社会に出てからも仙南地区において各方面で活躍する同窓生との繋がりを卒業前に構築しておくこと等を目的としています。今

後、大学からの協力も得ながら、11月の開催に向けて準備を進めていくこととなりました。

また、懇親会では、出席者全員が自己紹介と近況報告をおこなうなど、学生時代の思い出話などに花が咲き、終始笑いが絶えない和やかな会となりました。

<報告:仙台大学同窓会宮城仙南支部事務局>







実習中の様子

平成30年度海浜実習報告

7月13日(金)から16日(月・海の日)3泊4日の日程で、山形県鶴岡市・由良海水浴場にて海浜実習を実施しました。幸い天候にも恵まれて、晴れ渡る青空の下、学生たちは各々の泳力に応じて水泳技能向上に努めました。実習初日、いざ海を目の前にした実習生の表情は、緊張と不安とやる気が複雑に交錯している様子でしたが、班付きの先生方の細やかな声掛けと指導により、日を追うごとに水泳技能が向上する実習生の顔からは不安の色は徐々に払拭され、「今日は昨日より遠くへ泳げた」という小さな成功体験の積み重ねによる自信が芽生えていくのが、はっきりとわかりました。前日の白山神社へのお参りの甲斐あって大遠泳当日は温かく風もなく、穏やかな海面は絶好の遠泳日和という状況の中、31名の実習生は力強く海に泳ぎだしました。5月時点のプールの練習では、壁を蹴って10m泳ぐのがやっとの学生も、仲間に励まされながらひと掻きひと掻き着実に前に進んで沖に出ていく様子が大変印象的でした。海面コンディションにも恵まれた為、昨年は叶わなかった白山島の沖に出ることに成功。これまでの練習では感じたことのない沖のうねりに、上級班の実習生も少々驚いたようでした。時間にして1時間52分(昨年1時間58分)、由良海水浴場を目一杯使った大遠泳は、今年も一人の脱落者も出すことなく無事に完泳を果たすことができました。

その他の活動では、昨年度に引き続き着衣泳を実施しました。遭遇すれば50%以上の確率で人命にかかわる危機が及ぶ水難事故については、遭遇した時の対処を学ぶより、遭遇しないようにすることの方がむしろ大切ですが、万一有事の際のサバイバルスキルとして知らないよりは知っていた方が良いとの思いから、昨年度から導入したプログラムになります。端から見ているより高く感じる白山島の港の灯台に立ってみると、中には足がすくむ実習生もいましたが、皆覚悟を決めて着衣で落下(ジャンプ)し、岸まで泳いで戻る体験型プログラムを通して水辺安全について考えてもらいました。着衣状態で落水するとどういう感覚が体を襲うのか?泳いで移動することはどれほど困難なのか?もし、泳ぐことが必要となった場合、どのような泳法が適当なのか?体力消耗を抑制し浮いて救助を待つにはどうすれば良いか?など、実習生はそれぞれの状況に応じて水とうまく付き合う方法について学びを深めてくれたことと思います。

実習生が生身の体で自然の驚異に挑む3泊4日の実習では、人命の確保、安全を最優先に実施しなければならず、そのためには適所に人員を配置が必要になります。本実習運営とその実現にご尽力いただきました全ての皆様へ、この場をお借りして深く御礼申し上げます。引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

<報告 渡邉泰典講師>

第3回仙台支部総会及び懇親会を開催



参加された方々の記念写真

7月7日(土)18:00からパレス平安を会場に、大学からは遠藤保雄学長、同窓会本部からは大河原則夫事務局長、仙台支部会員40名が出席し開催されました。総会において岩槻支部長から5月の社員総会の報告と支部の現状について、遠藤学長からは大学の運営についてお話がありました。懇親会では大学草創期の方々の自己紹介と当時の大学の様子などがユーモアにあふれる話で大いに盛り上がり和気あいあいのうちに終了しました。

仙台支部は一昨年設立時の仙台市に昨年仙台市周辺の仙台教育 事務所管内も加わり広域の支部となりました。しかし、今総会の ように会員、若年層の出席率は低くネットワーク作りに苦労をし ていますが、これは仙台だけでなく全支部、全国の大学同窓会の 課題でもあります。今後、仙台大学同窓会としては、会員相互の親 睦と大学支援という活動目的のために、これらの課題解決と支部の 拡充などに全力で取り組んで行かなければならないと思います。

<報告:同窓会事務局>





就職担当の教職員が親身になって面談を行う様子

3年生対象の就職指導個別面談の実施

7月17日 (火) 14:30~F棟303教室にて健康福祉学科、現代武道学科の3年生を対象に、今後の進路を見据えた個別面談を実施しました。

この取り組みは6月26日 体育学科(A,B,Cクラス)、7月10日 体育学科(D,E,Fクラス)7月17日 健康福祉学科、現代武道学科、7月24日 運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科の4回に分けて実施し、学生に対して就職担当の教職員が面談を行い、現状の把握やインターンシップの参加促進、卒業後のキャリアを考える際の選択肢を増やすことなどを目的としています。

本学では、正課の授業とは別に火曜日の5時限目などを利用し、年間を通じ課外講座を実施し、就職支援を 行っています。夏休み明けからは、より実践的な内容とし、エントリーシートの書き方や面接対策の講座を繰 り返し行っていく予定です。

●今回面談を受けた健康福祉学科、現代武道学科の学生の感想



鈴木和馬さん (健康福祉学科3年)

「就職活動がもうすぐそこまで迫ってきており、改めて危機感を感じました。」



「書類の書き方や進路について先生方が考えてくださり、とても励みになりました。」



貝田憲哉さん(健康福祉学科3年)

「担当された先生が本当に親身になって進路のことを考えてくれました。今後に 生かしていきたいです。」



金智佑さん (現代武道学科3年)

「先生の話を聞いて挑戦することは大切で、興味のある所へどんどんチャレンジ していきたいです。」







仙台89ERS 2018年シーズンを迎えるに当たり

仙台89ERSの日本人選手の体力・運動能力測定と食事サポートを7月29日(日)に本学で実施し、8人の選手及び4人のスタッフの方々が来訪しました。

バスケットボールに重要とされる体力・運動能力(スピード、アジリティー、パワーなど)をチェックし、今回の結果を踏まえ年間を通して戦えるフィジカルの強化に本学としても全面的にサポートしていきたいと考えております。

当日は体力・運動能力測定終了後に、本学の運動栄養学科によるバランスのとれたアスリートのための食事を提供することで、シーズン中の良好なコンディショニングを維持するための栄養などについて理解を深めていただきました。仙台大学卒業後、管理栄養士の資格を取得して、2017年9月から89ERSを食事面をサポートしてきた新助手の菊地遥が今回は、試合期に向けて身体づくりや、疲労回復を目的としたメニューを考案いたしました。

○提供したメニューは以下です。

発芽玄米ごはん

鶏肉ときのこのさっぱりトマト炒め 水菜のサラダ(手作りドレッシング添え) エンドウ豆と豆腐の味噌汁 ほうれん草のカラフル和え バナナココアミルク





○選手たちからは

「栄養価も高くおいしかった」

「測定に加えて食事もパックで用意していただき、今後ともパフォーマンス向上に役立てていきたい」 とのコメントがあり、また、スタッフの方々からも、好評を得る事が出来ました。

これまであまりこのような体力測定などを経験していない選手が多く、実際に測定して、「自分の現在の体力が分かった」、「最近では自身の限界を自分で決めてしまっていると感じた」、「以外ときつい測定だった」などの声がありました。選手は競技力向上のために普段から強くなるための栄養素を意識することが不可欠であると感じたようです。

仙台大学は仙台89ERS様とアカデミックパートナーシップを締結しており、今後もトレーニング、コンディショニング、栄養などの面から、本学の特色を活かしたサポートを継続していきたいと思います。

<報告:内丸仁教授>







楽天生命パークで記念写真

球場内を見学する様子

楽天生命パーク宮城にてスポーツ施設見学会が開催されました

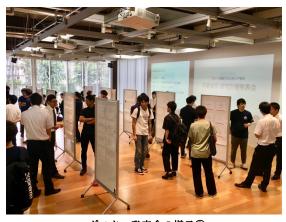
7/21(土)に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識習得を促進するものであり、今春に仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は初の開催となりました。

60名の学生が参加し、株式会社楽天野球団ボールパーク本部長より、楽天野球団の戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制等に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、実際に使用している天然芝生やグラウンド整備の機械や、グラウンドの芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「今回初めて開催された見学会に参加できてとても感謝しています。特に普段見ることが出来ない芝生の管理やシステムを学ぶことができたことは大変貴重な体験でした。」と感謝の声が多く上がっていました。この見学会は今秋に第二回を開催する予定となっています。

<報告:小島文雄体育施設コンサルタント・非常勤講師>



ポスター発表会の様子①



ポスター発表会の様子②

スポーツ情報マスメディア学科の卒業論文研究計画発表会を開催

7月24日(火)仙台大学LC棟1階にて、スポーツ情報マスメディア学科4年生の卒業論文研究計画発表会を開催しました。開催の主な目的は、①これまでの進捗状況を整理すること②スポーツ情報戦略とスポーツマスメディアの領域を超えて議論し研究を深めることです。発表会の形式はポスター発表で、時間内フリーディスカッションにて行い、この日は、本学科3年生も参加しました。

現在3年生は卒業論文における所属研究室希望調査期間で、参加した学生の一人は「研究テーマの設定や進め方についてとても参考になった」と感想を述べました。この時期に発表会を開催することは、スポーツ情報マスメディア学科にとって初めての試みでしたが、3・4年生ともに有意義な時間になったと感じました。

4年生は、残り約6ヶ月で卒業論文を完成させることになります。大学4年間の集大成として、これまで得た知識・スキル・思考力等を活かし、それぞれが設定したテーマを引き続き探究してほしいです。

<報告:溝上拓志助教>







中国上海体育学院での記念写真

上海体育学院卓球競技サマースクールへの参加

7月5日~8日1日、仙台大学の国際交流締結校である中国上海体育学院において、卓球競技のサマースクールが行われ、同学院の国際交流合作処および卓球学院からの招待を受け、本学より卓球部所属の運動栄養学科2年生の小林寛美さんを派遣しました。

本プログラムは、中国国技の卓球および伝統スポーツの武術を通して、国際交流を発展させることを目的に、上海市当局の支援の下で上海体育学院が主催しており、主に上海体育学院と提携している海外の大学に対して、一大学当たり1名の学生への招待により実施されています。プログラム内容について、卓球競技に関しては、他の国からの参加者および現地学生との卓球練習をメインとし、このほか、中国語、中国書道、伝統切絵、雑技の鑑賞などの多彩な文化体験により構成されています。本プログラム実施での使用言語は中国語および英語であり、派遣学生にとっては言葉の心配がありました。しかし、本人の積極性と真面目さで、10数ヶ国からの参加者と意欲的に中国語および英語でコミュニケーションをとり、プログラムの参加や日常生活に支障が出ないほど交流内容をこなしていました。また、各国留学生とともに寮生活を行い、普段の授業から日常生活まで、深い友情を築きました。中盤からの現地引率となりましたが、本人がすっかり現地の生活に慣れていた様子を窺うことができました。卓球学院の監督からは、「彼女は、卓球練習も授業参加もとても真面目な姿勢で取り組んでいるので上達が早い。」と高評価を頂きました。本人は「卓球強国の本場で卓球を学ぶことができたことと、プログラムの実施を通して、他の国からの参加者とも仲良くなり、大変良い経験ができました。」と、いきいきと語りま

した。短い期間ではありましたが、中国卓球の精神と技能に触れる機会となり、卓球に対する理解をより深めることにより、今後の成長につながるものと思います。

本プログラムは、参加学生にとって学んだことを活かし将来に役立てられる知識・経験等を得る良い機会となりました。今後、上海体育学院・卓球学院の素晴らしい環境および資源を活かして、卓球部間の交流や卓球授業の単位互換が可能となる長期留学制度の導入が、仙台大学の学生教育にとって有意義なものとなることを確信しましたので、是非、実現したいと考えております。





スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドフッドボールカップ・シカゴ大会に 黒羽秀選手(健康福祉学科2年)が日本選手団として出場しました

7月17日~21日に行われたスペシャルオリンピックス日本 ユニファイドフッドボール・シカゴ大会の日本選手 団として本学の黒羽秀選手 (健康福祉学科2年) が出場しました。ユニファイドとはひとつになるという意味で、 障がいのある方もない方も垣根を越えて1つのチームになり、競技をすることで相互に理解を深めることを目的としています。結果は2敗1分けで残念ながらグループステージ突破はなりませんでしたが、初めての海外における 大きな大会で得たものは大きく、今後の活躍に期待しましょう。

○結果

第1戦 対イタリア (0-0)

第2戦 対ジャマイカ (1-4)

第3戦 対ナイジェリア (0-3)





大会中の黒羽秀選手









宮城県、仙台市新規採用教員の方々

第19回「校長職就任祝賀会」 第8回「宮城県、仙台市新規採用教員激励会」を開催

7月28日(土)第19回「校長職就任祝賀会」第8回「宮城県・仙台市新規採用教員激励会」が、ホテル白萩 (仙台市)で開催され、朴澤理事長・学事顧問、遠藤保雄学長始め同窓生や本学関係者60名程が校長就任と教 員新規採用をお祝いしました。

今年度は、仙台大学の第13回卒業の渡辺勝典先生(八木山中学校)、第16回卒業の鎌田孝悦先生(鶴ヶ丘小学校)、第16回卒業の福田功先生(船岡中学校)と仙台大学大学院1期生の土生善弘先生(気仙沼支援学校)、仙台大学大学院5期生の鈴木秀利先生(登米高校)の5人がめでたく校長職にご就任なさいました。また、宮城県、仙台市の教員として22名が新規採用され、今回12名の先生方が出席しました。

朴澤理事長・学事顧問の挨拶、遠藤保雄学長の祝辞があり、教職支援センター長の金井講師の乾杯の音頭の後、恩師や出席者の皆さんとの懇親が和やかに行われました。

校長職に就任されました4名(鈴木校長は出張で欠席)の校長先生方からは大学時代からこれまでのエピソードや校長として新たな気持ちで学校経営に取り組んでいくとの決意が述べられ、また新規採用された教員の方々からは仙台大学出身者としての自覚、誇りを持って何事にも積極的に励みたいとの抱負が語られました。

最後の中締めの挨拶では、ユーモアあふれる針生教授の「伊達の一本締め」、そして校歌斉唱、村石松ヶ浜校長の万歳斉唱で2時間半の盛会を終了しました。 今回の司会は40回卒業の藤田雅士金ヶ瀬中学校教諭でしたが、落ち着いて滞りない進行ぶりが好評を博しました。

<報告:同窓会事務局長 大河原 則夫>



遠藤保雄学長の挨拶

課題をサポートする学生の様子

教員を目指す未来先生本学学生たち

今年で3回目「仙台大塾」開講しました。

7月30日(月) LC棟フロアを会場に未来先生「仙台大塾」の開講式が行われ、遠藤保雄学長、船迫邦則柴田町教育長、柴田町内の6小学校の校長先生、小学5.6年生169名の児童が参加しました。

開講式では、遠藤保雄学長から「仙台大塾で勉強に励んで充実した夏休みにしてください。」との激励の言葉がありました。また、参加する児童を代表して船岡小学校6年生の瀬尾駿也君から力強い言葉で学習に励みたいと決意を語ってくれました。

この事業は柴田町内の小中学校に通う児童・生徒を対象にして行われている「柴田町トップアスリート事業」の一環として開催されたもので、児童の個性や能力を十分発揮できて、自らの夢実現に叶えられるよう、学習習慣の定着を図るねらいで支援活動を目的としています。

今年は8回の開催が予定されており、児童たちは仙台大学のバスで通いながら、教員を目指す本学学生30名が 学習サポート役として夏休みの課題などに取り組むことになっています。

<報告:青沼一民副学長>









立ち幅跳びの様子

結果を発表する進藤亮祐新助手

ボブスレー・スケルトン競技 選手発掘コンバインテスト(身体能力テスト)を開催

7月1日(日)仙台大学陸上競技場にてボブスレー・スケルトン競技の新規選手発掘のためのコンバインテスト(身体能力テスト)を開催しました。冬季競技のボブスレー・スケルトン競技において特に重要視されているスプリント能力に長けている選手を発掘することを目的とし、日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟が主催し、仙台大学を会場に実施しました。

当日は、天気にも恵まれ快晴の中での測定会となり、仙台大学への進学を希望する3名の選手を含む8名が参加しました。お忙しい中、遠藤保雄学長にもご足労賜り、仙台大学がボブスレー・スケルトン競技を行うに当たり、とても良い環境であるという事をお話ししていただきました。

2種目の測定を行い、総合的に4名の選手が日本連盟が主催する日本代表選手選考合宿や若手選手育成合宿へ参加する権利を得ることができました。また、参加した高校生の女子生徒は「冬の競技に興味があった。仙台大へ進学しスケルトン競技に挑戦してみたい」と感想を述べました。

コンバインテスト中はケガや熱中症などもなく、無事に終了することができました。今後も継続的にテストの開催し、仙台大学を拠点に2022年北京五輪・2026年五輪に向けて長期計画で選手の発掘・育成ができるよう活動して参ります。

<報告:進藤亮祐新助手>



活動終了後にキャンパスライフサポート登録学生と 参加学生たちとの集合写真

キャンパスライフサポートグループによる学 生たちとの交流活動

7月26日(木)仙台大学の学生支援センター前にてキャンパスライフサポートグループによる学生たちとの交流活動が行われました。キャンパスライフサポートグループとは本学の学生支援センターにある組織の一つであり、「大学生活に不安を持つ学生へのサポートを行うことを主目的に、友達を増やしたい、他学年や他学科を超えた人間関係を築きたい、より充実したや世学校生活を過ごしたい」などの思いを抱いた学生が集まり、人間関係の構築と日々の生活の充実を目的に活動しています。活動はキャンパスライフサポートグループに登録している学生が中心となり、学生支援センターの教職員スタッフが支援する形で企画・運営を行っています。

今回はみんなで体を動かし汗を流す「スポーツの部」、夏の定番メニューを作り、楽しい時間を過ごすことを目的とした「食の部」を同時並行で行いました。「スポーツの部」では終始笑顔が絶えず、真剣な表情でバレーボールとフットサルに取組む学生の姿が、「食の部」ではかき氷と焼きそば作りを行い、活動の情報を聞きつけた学生たちが足を運び、嬉しそうにかき氷を頬張ったり、はじめて出会う学生たち同士でも交流する姿が見られました。

活動終了後には、キャンパスライフサポートグループで一緒に活動したいという新規登録学生が数名来てくれました。本グループの活動は、誰でも自由に参加することを念頭に置いているため、活動を通してサポートグループの「楽しい雰囲気」を感じることができます。今後も多くの学生が参加できる場を設けていくので、是非多くの学生にキャンパスライフサポートグループの魅力に触れてほしいと思います。

<報告:学生支援室 鈴木雄太>



|||平キャンパスAT・S&Cレボート 「高校スポーツの安全を守る」Vol.4

『熱中症と水分補給』講習会 明成フェスティバル

①『熱中症と水分補給』講習会開催





生徒が確認できるよう掲示版の設置

講習会の様子

仙台大学川平ATRは毎年7月の夏休みに入る前に熱中症と水分補給について講習会を開催しています。体はどのように体温調節しているのか、WBGT(暑さ指数)について、熱中症について、運動中の熱中症対策、運動中の適切な水分補給の仕方について講習しました。講習はそれぞれの部活動環境に合わせ、わかりやすくすぐに実践できるように具体的に講習するように工夫しています。夏休みを目前に控え、各部活動の練習に変化がある時期です。夕方の練習時間から日中へと練習時間が変わり、2部練習などもあり、遠征や合宿など練習場所なども変わってきます。いろいろな変化に順応していくためにどのように体を準備してくのか、講習を通してみんなで話し合うことができ、生徒達は気温や湿度への理解はもちろん、WBGT値で熱中症リスクがわかるようになりました。「WBGTが29だって!今日は危険だね!!」など、生徒同士の注意喚起が聞こえるほどになっています。

②明成フェスティバル

6月30日、7月1日に第3回明成フェスティバルが明成高校と仙台大学川平キャンパスで開催されました。明成フェスティバルは明成高校の運動部が主導して行うスポーツの祭典ですが、今年は調理科の参加、介護科の『ふくしわいわい祭り』が合同開催されました。開会式では健康スポーツコース代表男子サッカー部キャプテンが挨拶し、介護科の生徒が手話で歌を披露しました。

調理科の生徒たちは来場者に昼食を調理しました。約600名分の昼食を用意することはとても大変ですが、生徒達が手際良く調理していたことに驚きました。介護科で地域住民の方々をお招きすると、昔ながらのゲームや遊び、工作など訪れた高齢者の方々は童心に戻るかのように子供たちと一緒になって遊んでいました。模擬店では近隣の福祉チームと一緒に焼き鳥やポップコーン、駄菓子、手作りパンなどを販売していました。また、介護科は車椅子ツインバスケの東北DREAMs とコラボレーションし、参加中学生の約100名は車椅子バスケを体験するなど明成高校の生徒と地域の方々が交流を深める良い機会となりました。



<報告:白坂広子助手>

来場者の昼食を調理する様子



地域の方々とおもちゃを工作する様子



第3回明成フェスティバルの様子



輪投げをする様子